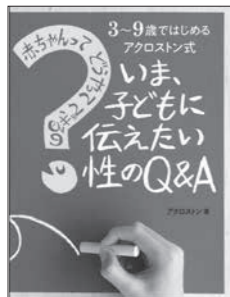




このコーナーでは、男女平等参画をはじめとするさまざまなテーマの本を紹介し、男女平等推進センター「パリテ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



3~9歳ではじめるアクロストン式
「赤ちゃんってどうやってできるの?」
いま、子どもに伝えたい性のQ&A
著者：アクロストン 出版社：主婦の友社
「赤ちゃんってどうしてできるの?」「生理ってなに?」「どうしてぼくにはおちんちんがあるの?」など、とても大切なことなのに、説明しづらい性のお話を分かりやすい形で説明してくれています。医師夫婦の著書、性教育の入り口に持ってこいの一冊です。



HSCの子育てハッピーアドバイス
著者：明橋大二
イラスト：太田知子
出版社：1万年堂出版
HSC(Highly Sensitive Child)-人一倍敏感な子という言葉を知っていますか?よく泣く、刺激に敏感・5人に1人がHSCとされています。自分らしく自己肯定感を育む方法が紹介されています。



いのちのまつり かがやいてる
著者：草場一嘉
出版社：サンマーク出版
人間は生まれてきたときみな輝いている。成長しながら色々な経験をし、喜びや悲しみなどの感情を感じる。どんな自分にもOKを出し、本当はどうしたいのと心に聞いて! 答えはすべて自分の中にある。親子で読んで欲しい本。

「男女共同参画白書 令和4年版」 (特集)人生100年時代における結婚と家族 ～家族の姿の変化と課題にどう向き合うか～

2022年6月14日に、男女共同参画社会の実現に向けた現状データと課題をまとめた「男女共同参画白書 令和4年版」が公表されました。昭和の時代から、家族の姿や人々の人生が大きく変化・多様化した実態が明らかになり、各メディアのニュースでも大きく取り上げられました。

大きな特徴としては、女性の半数以上が90歳まで生き、離婚件数は、結婚件数の3分の1に上り、50歳時点で配偶者のいない人の割合が、男女ともに約3割に達しています。

また、20代女性の半数、男性の約7割が「配偶者・恋人がいない」と答えており、「積極的に結婚したいと思わない理由」として、男女ともに多かったのが「結婚に縛られたくない、自由でいたい」「結婚するほど好きな人にめぐり合っていない」「結婚という形式にこだわる必要性を感じない」。男性で多かった理由には、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定」という回答でした。

女性の人生が多様化する中、経済的困窮に陥ることなく誇りをもって人生が送れるよう、女性が経済的に自立できる環境整備や、世帯単位から個人単位への保障・保護制度の見直し等の必要性が盛り込まれました。

パリテだより

センターパリテでは、さまざまなイベントを開催しています。
2022年5月までに実施した主な事業をご報告いたします。



2022年3月12日(土)
子どもの性を育てるとは
～親・保護者のための性教育～
講師：村瀬幸浩さん
子どもの性教育どうしたら良いの? 体への疑問・質問にどう答えたら良いの? そんな戸惑いに応えてくれた講座でした。子どもの人格・人権を大切にすること、小さな頃から同意と拒否する能力を身につける学習が大切なお話がありました。



2022年4月16日(土)
楽に響く声の作り方講座
講師：早川直記さん
(ココロウィズ所沢代表、ボイストレーナー、話し方講師)
発声方法やプレゼンテーションなどの講師として幅広く活躍中の早川さん。ゆったりとした雰囲気の中、姿勢、ノドのリラックス、呼吸、表情など、効果がすぐに実感できるポイントや練習方法を教えていただきました。



2022年5月21日(土)
誰でも描ける
初めてのゼンタングル®
講師：Miikoさん
基本の形を教わり、各自ゼンタングルを描きました。お一人ずつ作品を作成し、最後、全員の作品を合わせて一つの作品が完成! リラックスした土曜日になりました。

「生理の貧困」に悩む女性へ 市が生理用品を無償で配布

西東京市では、生理用品の無償配布を行っています。詳しくは、こちらをご覧ください。



経済的な理由で生理用品を購入できないという「生理の貧困」が問題になっています。厚生労働省「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」によると、新型コロナウイルス発生後の2020年2月から2022年2月までの間で、生理用品の購入・入手に苦労したことがある人は約8%。20代以下の割合が他の世代よりも高くなっていました。生理用品が購入できないと、交換頻度を減らしたり、トイレットペーパーなどで代用したりしているのが現状。そのため、かぶれ・かゆみなどの症状に悩まされ、プライベートのイベント・予定をあきらめる、家事・育児・介護が手につかない、学業や仕事に集中できないという弊害がでています。
生理用品の購入・入手に苦労したことがある人の

約半数が、居住地域に無償提供制度があるか分からないと回答。無償配布を知っていても「恥ずかしい」「人の目が気になる」といった理由で受け取らない人もいます。
こうした「生理の貧困」を減らすため、国や東京都、西東京市でも生理用品を無償で配布しています。パリテが実施したアンケートによると、西東京市の小学校では18校すべての保健室で配布しており、中学校でも9校すべての保健室や女子トイレに設置しているということが分かりました(住吉会館での配布も継続して行っています)。
すべての女性たちに生理用品の無償配布の情報が届き、公共施設のトイレなど、誰でも気軽に入手できる取り組みを今後も行っていきます。